



ラテンアメリカ

Diamond Gas Report

ペトロブラス、ソナトラックとLNG供給に向けたMOUを締結

ブラジル国営石油会社ペトロブラスは5月26日、アルジェリア国営石油会社ソナトラックとの間で、同社が同国Pecem港／Guanabara湾岸で計画中のLNG受入基地に向けたLNG供給、及び両社の互惠協力関係強化に関する覚書（MOU）を締結したと発表した。調印は、ペトロブラスのAzevedo社長及びソナトラックのMaziane社長が、アルジェリアで行った。

両社は、アルジェリア産LNGのブラジル向け供給について具体的な供給量／販売価格などの詳細は明らかにしていないものの、開始は2008年からとなる見通し。供給先となるPecem港／Guanabara湾岸のLNG基地プロジェクトは、同国セアラ州及びリオデジャネイロ州にそれぞれ浮体式LNG貯蔵／再ガス化設備（FSRU）を利用した基地を建設するもの。受入能力はPecem港が700万立方メートル／日（LNG換算約180万トン／年）、Guanabara湾岸1,400万立方メートル／日（同約360万トン／年）で、共に2008年7月頃の操業開始を予定している。再気化されたガスは、主に乾季となる5－10月の火力発電用燃料として利用される計画。

互惠協力関係に関し両社は、相互利益に基づき両国及び第三国での陸上／沖合の探鉱／生産（E&P）に向けた協力調査を行う。具体的に両社は、協力機会を話し合うための作業部会を設置し、定期的に協議を開催する。同作業部会では、石油及び石関連油製品／石油化学製品／下流でのビジネスチャンスなど、新たな商業製品の増加／開発についても評価を行う予定。

また、両社は同時に、将来的なLNG売買の枠組みを定めたLNGマスター契約を締結した。同契約に基づき両社は、ブラジル市場向けスポット取引を含めたLNG取引を進めていく模様。ブラジルは現在、国内天然ガス消費量の約60%をボリビアから

輸入しているが、同国への依存を低減するため、国内ガス田開発／LNG輸入に向けて注力している。計画中のLNG受入基地2カ所を合わせた供給能力は、2011年に予測される国内ガス需要の約6分の1を賄えると見込まれる。

尚、Pecem港／Guanabara湾岸の両基地に関してペトロブラスは、ソナトラック以外にも、2007年4月にナイジェリア／オマーンとの間でLNGの供給について合意に達している。また同月、ノルウェー系LNG輸送会社Golar LNGとの間で、FSRUの2隻の長期備船契約を締結している。同社は更に3隻目のFSRU備船も検討しており、3カ所合わせて3,500万立方メートル／日（同約900万トン／年）の受入能力を確保する見通しという。【林】



（ペトロブラス／ソナトラック・プレスリリース、Latin America News Digest、Gas Matters Today、Business News Americas、Platt's Commodity News、BBC Monitoring Middle East 5月26－29日）

※ 参照記事

第817号「ペトロブラス、Golar LNGとFSRU 2隻の長期備船契約を締結」

第815号「ペトロブラス、アルジェリア産LNG確保に向けMOU締結へ」